

2024年度「第3回北海道労済運動推進会議」報告

**重点共済新規加入目標 8,485 件に対し、5,532 件の実績
目標基準 66.7%を下回る 65.2%の状況！**

「2024年度 第3回北海道労済運動推進会議」が3月10日(月)、ホテルポールスター札幌にて52名の参加により集合形式にて開催され①2024年度活動報告②重点共済の推進状況について③今後の推進活動について④役員体制について、すべての議案が確認されました。

2025年1月末における重点共済の推進状況ですが、年間目標 8,485 件に対して、新規加入実績 5,532 件となり、目標達成基準 66.7 を若干下回る 65.2%の状況で年度末目標達成に向けて推進活動の強化が必要です。



北海道労済運動推進会議
議長 高倉 司

《 挨拶 》

それぞれ大変お忙しい中、全道各地から第3回全道推進会議にご出席を頂き誠に有難うございます。

日頃から、各地域・職場で労済運動推進にご尽力を頂いておりますことに、敬意と感謝を表すところであります。

昨年この会議では、冒頭、能登半島地震の話をしてしまいましたが、今回は山火事の話からさせていただきます。岩手県大船渡地区の山林で2月26日火災が発生しました。この火災では1896世帯4596人に避難指示が出され、12カ所の避難所に1216人が、そのほかの方は有知人宅や車中に避難されたということです。昨日「鎮圧宣言」が出され、本日午前中にはすべての地区で「避難指示解除」となるそうですが、今日まで13日目という長期間の避難生活となりました。

さらには、今朝の報道では210棟の家屋が焼失したとありました。その方々は引き続きの避難生活・仮住まいが続くこととなります。今回避難を余儀なくされた方々の中には、2011年に発生した東日本大震災で津波に襲われ、その経験から高台に家を構えたら、今度は山火事に襲われたという、その方々の心中を思うと居たたまれない気持ちです。被災した方々に、改めてお見舞い申し上げます。また、被災者の中に、こくみん共済coopの共済に加入している方がいらっしゃるという聞いております。一日も早く補償の処理をして頂くことを願うところです。

さて、本日の会議は、こくみん共済coop北海道推進本部より2023年度の「事業状況報告」を頂いた後、議題として第三四半期終了直前の8か月間の「活動報告」及び「重点共済の推進状況」と、それを踏まえた「今後の推進活動」について提起させていただきますので、よろしくお願い致します。なお、本推進会議には、「藤盛本部長」と「佐藤事務局長」にご出席を頂いております。後ほど、「藤盛本部長」より挨拶を頂き、「佐藤事務局長」からは事業状況報告を賜りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

2024年度の事業推進状況ですが、「こくみん共済」「長期共済」「マイカー共済」「自賠償共済新規・継続」「火災共済」「自然災害共済」の6共済を重点共済と位置づけ取り組みを進めて頂いています。詳細につきましてはこの後「紺野事務局長」から提起して頂きますが、第三四半期中の8ヶ月、2月末集計では達成率65.3%と目標の66.7%を若干下回ってはいますが、「長期共済」

や「住みいる共済」では大きな成果を上げています。順調に推進活動が行われていると考えており、各支所・ブロック推進会議の役員の皆さんと産別・単組の推進委員の皆さんに、感謝と敬意を表します。「ありがとうございます」

引き続き、目標達成に向け、更には応援派遣する職員のフォローの一環として、ご奮闘いただくことをご要請申し上げ、推進会議の開催にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願ひいたします。

《 挨拶 》



春季生活闘争の取組など大変お忙しい中、本推進会議にご出席いただき感謝申し上げます。また、日頃より、労済運動推進を通じて、こくみん共済 coop の各支店・支所の職員が大変お世話になっていることに心より感謝申し上げます。

事業実績について、後程事務局から詳細な提案がありますが若干報告いたします。

共済別に見ますと、こくみん共済については、北海道推進本部独自強化期間を設定して取り組んできましたが苦戦しています。長期共済については、目標達成ペースで進捗しています。火災・自然災害共済については、自然災害の激甚化・多発化及び火災共済70周年の取り組みにより、目標達成が視野に入ってきました。マイカー共済については、組合員の皆様から掛金見積もり

をいただく取り組みを行ってきましたが、目標達成は厳しい状況です。自賠責共済については、継続加入が減少している状況から、マイカー共済加入者で自賠責共済に未加入の方に対してのアピールを強化しています。

5月末の年度末まで残り期間は少ないですが、各地域の状況を勘案しながらラストスパートをかけたいと思いますのでご協力お願いします。

本日は、推進会議終了後、4月1日に予定しているマイカー共済の制度改定の説明をさせていただきますので、加入推進をよろしくお願ひいたします。

もうすぐ、新入組合員が入会する時期が来ます。是非こくみん共済 coop の各種共済の紹介をお願ひいたします。

さて、4月に在札の店舗の統合、駅前店の土曜日の営業の再開、全道各店舗の営業時間の見直しについて本格的に取り組みますのでご理解をいただきたい。

今後の皆様の春季生活闘争のご奮闘に期待します。

以上



参加者及び幹事



報告事項を提案する
「こくみん共済 coop 北海道推進本部」
事務局長 佐藤 敏行



協議事項を提案する
「北海道労済運動推進会議」
事務局長 紺野 則仁

詳細は、議案書を参照願います。

2024年度 第3回 北海道労済運動推進会議

日時：2025年3月10日（月）14:00～15:20

会場：ホテルポールスター札幌

議 事 次 第

開 会

小倉副議長

挨 拶

北海道労済運動推進会議

高倉議長

こくみん共済 coop 北海道推進本部

藤盛本部長

報 告

I. こくみん共済 coop 北海道推進本部 2024 年度事業状況について

佐藤事務局長

議 題

I. 2024 年度 活動報告について

紺野事務局長

II. 2024 年度 重点共済の推進状況について

紺野事務局長

III. 2024 年度 今後の推進活動について

紺野事務局長

IV. 2024 年度 北海道労済運動推進会議 役員体制について

紺野事務局長

その他

閉 会

小倉副議長

<報 告>

I. こくみん共済 coop 北海道推進本部 2024 年度事業状況について

1. 令和 6 年能登半島地震への対応について

共済金支払い状況

(2025 年 2 月 12 日時点)

(単位：円)

	火災共済		自然災害共済		慶弔共済		合計金額(円)
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
全国	22,353	314,589,966	18,604	14,547,874,940	6,652	148,794,000	15,011,258,906
新潟	4,985	66,700,000	4,305	3,475,797,000	1,456	30,297,000	3,572,794,000
富山	7,224	74,754,966	5,793	3,474,761,000	3,109	72,979,000	3,622,494,966
石川	8,755	164,850,000	7,225	7,276,837,200	1,928	44,107,000	7,485,794,200

2. 目標に対する進捗状況について (2024 年 12 月末実績：7 カ月経過) 【別冊資料 1~2】

累計純増は件数▲7,131 件、▲771,404 口となり件数、口数とも昨年に引き続き純減が続いています。居住域のこくみん共済は 12 月単月で▲93,757 口（前年同期：▲108,576 口）で前年度より若干減少は改善しつつも依然として純減の大きな要因となっています。その一方で、職域は、労金質権を除けば口数は純増を維持しており、特にマイカー共済は一定順調に推移しており実績を下支えしてありますが、自賠責共済は単月で大きく減少しています。

	2024 年度事業目標		2024 年 12 月末累計純増		目標件数との差異	
	目標件数	目標口数	純増件数	純増口数	件数	口数
職域	▲ 3,834	480,000	▲ 2,490	▲ 15,738	1,344	▲ 495,738
居住域	▲ 4,166	▲ 700,000	▲ 4,641	▲ 755,666	▲ 475	▲ 55,666
合計	▲ 8,000	▲ 220,000	▲ 7,131	▲ 771,404	869	▲ 551,404

3. 前年同期比実績について (2024 年 12 月末実績：7 カ月経過)

前年同期と比較すると、数値上は約▲123.0 万口となっているものの、昨年度の交運共済の実績移管があった影響であり、その影響を補正すれば件数、口数は大きく上回っています。職域は、この間、減少要因となっていたセット共済の自然災害やマイカー共済も着実な推進により 164,174 口上回り、産別での組織統合による団体生命共済の新規拡大はあるもののそれを大きく上回る離退職、組織解散により団体生命共済は純減から脱却ができていない状況です。

(交運共済移管実績を含む実績)

	昨年度 (2023 年 12 月末)		当年度 (2024 年 12 月末)		前年同期との差異	
	純増件数	純増口数	純増件数	純増口数	純増件数	純増口数
職域	▲ 1,828	▲ 29,523	▲ 2,490	▲ 15,738	▲ 662	13,785
居住域	5,077	488,299	▲ 4,641	▲ 755,666	▲ 9,718	▲ 1,243,965
合計	3,249	458,776	▲ 7,131	▲ 771,404	▲ 10,380	▲ 1,230,180

(交運共済移管実績を除く実績)

	昨年度 (2023 年 12 月末)		当年度 (2024 年 12 月末)		前年同期との差異	
	純増件数	純増口数	純増件数	純増口数	純増件数	純増口数
職 域	▲ 3,259	▲ 179,912	▲ 2,490	▲ 15,738	769	164,174
居住域	▲ 4,629	▲ 734,426	▲ 4,641	▲ 755,666	▲ 12	▲ 21,240
合 計	▲ 7,888	▲ 914,338	▲ 7,131	▲ 771,404	757	142,934

4. 零似ショップ零似店閉鎖に伴う今後の対応について【別冊資料3】

<議 題>

I. 2024 年度 活動報告について

1. 2024 年度活動報告について

2024 年度北海道労済運動推進会議は、労済運動の推進基軸母体として運動の前進をはかるべく、基本方針を踏まえ産別、単組、ブロック推進会議と連携のうえ取り組みを進めてきました。

2025 年 1 月末における重点共済の進捗状況ですが、年間目標 8,485 件に対し、5,532 件（達成率 65.2%）となっており、目標基準である 66.7%を若干下回っている状況にあります。

これまで、こくみん Life サポートなどを活用した推進を展開し、組合員との接点機会を繋ぐ取り組みを進めることができました。その結果、5～6 月における住まいの統一キャンペーン、8～9 月における生命系共済強化期間において目標達成をすることができました。

特に住まいの共済については、2024 年 4 月に実施した制度改定を契機とした「無保障者をなくす取り組み」により、火災共済が達成率 86.0%、自然災害共済も達成率 76.9%とともに大きく年間目標基準を超過する順調な進捗状況にあります。

さらに、保障設計運動における協力団体・組合員の保障の基盤となる団体生命共済についても、加入口数の引き上げや特約付帯など、労済運動の裾野の拡がり、普及促進が実感できる成果が得られた第三四半期までの状況となっています。

<2024 年度基本方針>

- 1 労働者共済運動の根幹である職域推進において、北海道労済運動推進会議と支店推進会議、ブロック推進会議との一体的な労済運動を展開し共済運動の基盤強化を目指します。
- 2 「7 歳の交通安全プロジェクト」「子どもの成長応援プロジェクト」等、社会課題解決（SDGs）の取り組みの周知活動を強化するとともに、「こくみん共済」「マイカー共済」の加入拡大をはかります。
- 3 近年の自然災害多発を受け、組合員を災害から守る取り組みとして、「無保障者をなくす取り組み」と「既加入者への保障点検活動」を継続するほか、防災士資格を持つこくみん共済 coop 職員による防災減災セミナーの開催等、有意な情報提供や啓発活動を強化します。
また、2024 年 4 月に実施した共済制度改定を契機とし、制度改定内容の理解から防災・減災に繋げる取り組みを行います。
- 4 新たな組合員サービス「公式アプリ」「こくみん Life サポート」について、組合員の利便性向上、組合員と労組とこくみん共済 coop を繋げる新たなサービスと位置づけ、積極導入を促進します。
- 5 保障設計運動の観点から協力団体の保障の基盤となる団体生命共済の一律加入の引き上げや特約の付帯など組織内保障の拡充に加え、「こくみん Life サポート」の利用による福利厚生制度の拡充の観点から取り組み要請を強化します。
- 6 自動車関連補償に関しては、組合員の可処分所得向上の一助としてのマイカー共済の取り組み（適用割引率の丁寧な周知と横断旗寄贈と連動した見積依頼書の収集強化）とともに、自賠責共済の加入拡大をはかります。
- 7 産別、単組と連携し、将来にわたる労済運動の拡がりの観点から「保障セミナーの開催等」新入組合員対策を講じるとともに、これまでの共済利用の感謝と永続的な必要保障確保の観点から退職者対策を強化します。
- 8 たすけあいの輪をむすぶ、拡げるため、「新規団体の紹介、新規組合員の紹介」活動を産別単組、ブロック推進会議、ブロック労福協との連携を強化し展開します。

2. ブロック推進会議等の開催状況

北海道労済運動推進会議として議長を中心に総会に参加し、日ごろの労済運動への協力の御礼と向こう一年間の取り組みへの要請を行ってきました。

また、前回12月4日開催第2回北海道労済運動推進会議開催後も、各ブロックで幹事会、推進会議等を開催し、労済運動の前進に向けた取り組みが進められています。

ブロック	総会等
石 狩	7/9 総会 12/16 支店推進会議 1/21 幹事会
後 志	7/20 総会 12/5 幹事会
西 胆 振	7/22 総会 12/23 幹事会
東 胆 振	7/16 総会 12/12 幹事会
日 高	7/13 総会 12/10 幹事会・推進会議
空 知	7/22 総会 12/12 幹事会
釧 路	7/26 総会 12/5 支店推進会議 1/21 幹事会
根 室	7/28 総会 12/7 推進会議
十 勝	7/27 総会 12/14 推進会議
網 走	7/6 総会 2/1 幹事会
上 川 中	7/19 総会 12/11 支店推進会議
上 川 南	7/12 総会 11/22 推進会議
上 川 北	7/17 総会
留 萌	6/21 総会
宗 谷	7/20 総会 11/9 推進会議
北 渡 島	7/23 総会 12/1 支店推進会議 12/17 幹事会
南 渡 島	7/19 総会 1/21 幹事会
檜 山	6/27 総会 12/5 幹事会

3. 勤労者福祉向上キャンペーンの取り組み

連合北海道（労働福祉対策特別委員会）・北海道労福協が主催する「勤労者福祉向上キャンペーン」と連携し、2024年9月1日～10月17日に19産別・団体に対して労働福祉事業団体の利用拡大、推進強化の要請活動を行いました。

連合北海道、労働金庫、こくみん共済 coop、住宅生協、道労福協による合同オルグを実施し、こくみん共済 coop については、災害時無保障者をなくす取り組みや公式アプリの導入促進等の推進課題について各産別組織ならではの要請を行いました。

また、ブロック労福協への要請活動についても、日高、十勝、根室の3ブロックにて実施をしました。

4. 生活保障設計運動定着の取り組み

2022年6月に掛金改定、特約の新設等、大幅な制度改定を行った団体生命共済について、協力団体への提案活動を行い、従来の死亡保障等、基本保障の充実のほか、特約付帯等協力団体が組合員のための保障の基盤強化に取り組み保障設計運動の進展がはかられました。

団体生命共済・慶弔共済 新規・増口
9 団体／9,361 口

5. 領域拡大への取り組み

運動基盤拡大の観点から「新規登録団体」の拡大に取り組み、産別からの紹介により、ともに労済運動を担う協力団体・組合員の拡大をはかることができました。

2024 年度 新規登録団体
北海道乳業労働組合（フード連合）
環境開発工業労働組合（UA ゼンセン）

6. 社会課題解決に向けた取り組み

こくみん共済 coop の以下社会的課題の取り組みについて、北海道労済運動推進会議としても積極的に関わり賛同に基づく取り組みを展開しています。

(1) 子どもの成長応援プロジェクト（通年）

子育て中のパパ・ママへのサポートや子どもの成長を支えるための様々な活動を行っており、子どもの体力低下への課題対応として、こくみん共済こども保障タイプ加入1件につき、全国の児童館などへなわとび・長縄を1本寄贈しています。

2024 年度 子どもの成長応援プロジェクト（職域分 なわとび寄贈予定数）
75 本（2025 年 2 月末現在）

(2) 7歳の交通安全プロジェクト（通年）

7歳の子どもが、他の年齢と比較し、突出して交通事故に遭いやすいというデータがあり、こくみん共済 coop では、交通事故を減らすための金沢大学との共同研究に加え、特設サイトでの発信など、子どもたちの安全を守る取り組みを行っています。

マイカー共済の見積もり1件につき、全国の児童館などへ横断旗を1本寄贈しています。

※参考資料として、2023年12月～2024年5月の北海道における寄贈実績をご参照ください。

【別冊資料4】7歳の交通安全プロジェクト 寄贈実績一覧（職域・地域契約合計）

2024 年度 7才の交通安全プロジェクト（職域分 横断旗寄贈予定数）
683 本（2025 年 2 月末現在）

7. こくみんLife サポート・公式アプリの利用促進等の取り組み

公式アプリについて各ブロック推進会議や産別執行委員会等における積極導入をはかりました。あわせて、持続可能な社会実現の取り組みに向けた費用相当分を負担する「デジタル促進特別活動費」の活用周知をはかっています（事前に協定書を締結し、アプリを新規ダウンロードのうえ、アプリからマイページへ初めてログインした件数1件につき、250円をお支払いするもの）。

2024年度 職域 公式アプリ導入者数
469名（2024年11月18日時点）→794名（2025年2月21日時点）
※2023年度総登録人数 2,502名

2024年度 デジタル促進特別活動費 協定締結団体数
248団体（2025年2月21日現在）

拠点名	アプリ登録数	目標登録数	進捗状況
札幌支所	269	2,257	11.9%
小樽支所	19	754	2.5%
苫小牧支所	35	762	4.6%
室蘭支所	55	935	5.9%
岩見沢支所	37	383	9.7%
釧路支所	61	850	7.2%
北見支所	17	575	3.0%
帯広支所	74	800	9.3%
道北支店	164	1,342	12.2%
道南支店	30	884	3.4%
北海道推進本部	794	9,542	8.3%

Ⅱ. 2024年度 重点共済の推進活動について

1. 生命系共済（こくみん共済・長期共済）の推進について

(1) 年間新規加入目標・達成率

【目標達成率 66.7%】

	目標	新規加入実績	目標達成率
こくみん共済	1,050	455	43.3%
長期共済	900	647	71.9%
生命系共済 計	1,950	1,102	56.5%

※産別、ブロックごとの達成状況については【別冊資料 5～6】参照

生命系共済については、8月～9月に「2024年度第1回北海道推進本部生命系独自強化月間」を展開し、保障点検を通じ共済提案を多く実施したことで実績に結び付けることができ年間目標達成ペースで推移していましたが、その後、実績が鈍化し目標達成が厳しい状況となっています。

(2) 産別、ブロック推進会議実績状況、独自強化月間進捗状況について

- ① こくみん共済、長期共済合計について、46産別中9産別、地域では5ブロックが目標基準を上回る推移をしています。
- ② 各産別・構成単組にて、執行部との綿密な連携のもと、セット共済更改時における保障相談等、組合員への対応をこまめに実施してきたことが成果に結びつきました。特に、貯蓄型商品「掛金一律プラン」について推進成果が挙げられています。
- ③ 2025年1月～4月にて展開している「第2回生命系強化月間」は、2月末時点において目標1,389件に対し165件、目標進捗率48.3%に対し11.9%の進捗状況となっています。

2. 自動車総合補償（マイカー共済、自賠償共済）の推進について

(1) 年間新規加入目標・達成率

【目標達成率 66.7%】

	目標	新規加入実績	目標達成率
マイカー共済	1,000	541	54.1%
自賠償共済（新規）	1,900	1,280	67.4%
自賠償共済（継続）	1,535	880	57.3%
自賠償共済 計	3,435	2,160	62.9%

※産別、ブロックごとの達成状況については【別冊資料 5～6】参照

① マイカー共済

「7歳の交通安全プロジェクト」への賛同団体を募り、「マイカー共済の見積り1件＝横断旗の寄贈1本」の周知をはかるなど、社会課題解決への参加を広く呼びかけ、団体割引の周知を契機とし物価高騰情勢での組合員の可処分所得向上に応えられる共済として取り組んでいます。

1月末時点においては、年間目標達成ペースを下回っているため、3月～5月の車購入数が多いとされている期間において、マイカー共済の見積取得などの取り組み強化をはかる必要があります。

② 自賠責共済

産別・単組、支店推進会議、ブロック推進会議が一体となり、協力団体を通じて、執行部を始めとして組合員の車検満了データ集約や、既契約者に対する車検満了前からの早期かつ複数回の確実な要請活動を展開し、契約締結までの着実な取り組みは運動として定着してきました。

1月末時点において、年間目標ペースを若干下回っています。以下、継続対応状況のとおり継続率に差があり、更なる継続対策をはかるとともに、現在の車検繁忙期における新規実績の積み上げが重要となります。

(2) 産別、ブロック推進会議実績状況、キャンペーン進捗状況について

①マイカー共済では産別は7産別、地域では6ブロックが目標水準を超える実績推移をしています。自賠責共済では新規・継続総計にて産別は6産別、地域では5ブロックが目標水準を超える実績推移をしています。

②2025年2～4月にかけて「～2025年4月商品改定～さらに安心！くるまの補償点検キャンペーン」を展開し、2月末時点において目標566件に対し57件、目標進捗率30.3%に対し達成率が10.1%の進捗状況となっています。

【各拠点継続率（1月末時点）】

【2024年度目標継続率68.3%】

拠点名	ブロック	対象継続件数	継続	未継続	継続率
札幌支所	石狩ブロック	311	207	104	66.6%
小樽支所	後志ブロック	45	22	23	48.9%
室蘭支所	西胆振ブロック	67	32	35	47.8%
苫小牧支所	日高ブロック	27	22	5	81.5%
	東胆振ブロック	43	22	21	51.2%
岩見沢支所	空知ブロック	56	30	26	53.6%
釧路支所	釧路ブロック	87	51	36	58.6%
	根室ブロック	55	41	14	74.5%
北見支所	網走ブロック	139	96	43	69.1%
帯広支所	十勝ブロック	187	118	69	63.1%
道北支店	上川中ブロック	67	43	24	64.2%
	上川南ブロック	42	28	14	66.7%
	上川北ブロック	51	31	20	60.8%
	留萌ブロック	25	14	11	56.0%
	宗谷ブロック	20	14	6	70.0%
道南支店	南渡島ブロック	111	70	41	63.1%
	北渡島ブロック	51	34	17	66.7%
	檜山ブロック	47	29	18	61.7%
総計		1,431	904	527	63.2%

3. 住まいる共済（火災共済・自然災害共済）の推進について

（1）年間新規加入目標・達成率

【目標達成率 66.7%】

	目標	新規加入実績	目標達成率
火災共済	1,250	1,075	86.0%
自然災害共済	850	654	76.9%

※産別、ブロックごとの達成状況については【別冊資料 5～6】参照

① 火災共済

気候変動による大規模災害の脅威から組合員の生活を守るため、ニーズにあった最適保障提案のため、取り組みを展開しました。広く多くの組合員を対象とした周知活動やアンケート収集による最適保障提案を行い、年間目標達成ペースを上回っています。

② 自然災害共済

制度改定を契機とし近年多発している台風や巨大地震への恐れ、北海道特有の冬期間に多発する雪害、凍結被害等の対策、その他浸水による保障ニーズの高まりを踏まえ、協力団体においても組合員の保障の見直しについて、その必要性を改めて理解いただき運動の拡大前進をはかり行い、年間目標達成ペースを上回っています。

（2）産別、ブロック推進会議実績状況について

火災共済・自然災害共済ともに 16 産別、地域では火災共済については 13 ブロック、自然災害共済については 11 ブロックが目標基準を超える実績推移をしています。

（3）組織加入について

全日通労働組合北見支部にて、組織改編に伴う取り組みの成果として 95 件の火災共済の新規実績がありました。

Ⅲ. 2024年度 今後の推進活動について

1. 重点共済の推進対策（支店推進会議・ブロック推進会議との連携強化）

こくみん共済 coop の設定する各共済の推進強化期間を推進の山場とし、人・家・車等全ての保障分野の総合提案により、重点共済各種共済の目標達成をはかります。

物価高騰等社会情勢を踏まえ、組合員に寄り添いながら、適正な保障点検活動を進め、更なる安心を提供していくことをめざします。今後セット共済（団体生命共済、住まいる共済、交通災害共済）の更新を迎える協力団体には更新とあわせた推進提案を予定しています。セット共済更新後もしくはセット共済を利用していない団体については、推進強化月間等において各組合員のお役立ちに繋がる取り組みを要請します。

こくみん共済 coop が展開している「～2025年4月商品改定～さらに安心！くるまの補償点検キャンペーン」や「第2回生命系独自強化月間」の結果によっては、重点6共済の総件数での目標達成も充分可能であることから、引き続き、自賠責共済も含めて特段の取り組みにご協力をお願いします。

（1）生命系共済（こくみん共済・長期共済）推進

年度末にむけては、既契約者を起点とし複合的な保障、家族、世帯を意識した総合的な提案を進め、運動の前進を目指します。

特に、こくみん共済 coop が設定している推進強化期間（1～4月）において、「生命系推進の強化月間」の集中的な取り組みとして、従来、保障相談窓口を設置していない協力団体についても、積極的な取り組み要請をおこない、共済利用者の裾野拡大をはかります。

また、子どもの教育費用や退職等、組合員のライフイベントに備えた貯蓄の必要性を提案し、これらのニーズに応える貯蓄性商品の推進をはかります。

- ① 保障と貯蓄を兼ねた貯蓄性商品の推進（満期金付定期生命プラン・掛金一律プラン・こくみん共済こども保障満期金付プラン、新団体年金共済等）
- ② こどもの成長応援プロジェクトの協賛要請をとおした「こども保障タイプ」の推進
- ③ 家族分未加入組合員への「世帯トータル保障設計」の推進
- ④ 個人長期生命共済・終身生命共済予定利率改定（2025年4月）をふまえた取り組み

（2）自動車関連補償共済（マイカー共済・自賠責共済）推進

2025年2～4月にかけて「～2025年4月商品改定～さらに安心！くるまの補償点検キャンペーン」を展開しています。成約にあたっては見積り収集が前提となることから、取組期間に限らず通年での見積り収集強化をはかります。

マイカー共済については、多くのマイカー共済取り扱い団体に12.5%を超える割引率が適用されており、今年度の適用割引率の丁寧な周知とともに、取り組み団体の拡大、更なる多くの組合員への利用拡大をはかります。

2025年4月実施予定の制度改定を契機とし、物価高騰により一層高まる組合員の可処分所得向上の期待に応えられる掛金優位性をもとに、取り組み強化期間に限定せず、産別・単組内で広く周知をはかります。

また、マイカー共済とのセット取り組みとして自賠責共済予約票収集と継続対策を強化します。2024年度の上期の自賠責共済の満期件数が（50.8%）、下期が（49.2%）であるため、年

間目標の達成のためには、通年での新規実績の積み上げと継続率 68.3% 目標の達成が必須となります。その他、車検繁忙期につき組合員サービスとしての指定整備工場への利用促進をはかります。

- ① 適用団体割引率の周知活動
- ② 7 歳の交通安全プロジェクトの協賛要請と見積もり収集活動
- ③ 自賠責共済における執行部全員加入を目指す取り組みの継続
- ④ 自賠責共済年間満期者リストの共有による漏れのない継続対策
- ⑤ チラシの積極配布等こくみん共済 coop 指定整備工場の利用促進に向けた取り組み

(3) 住まいる共済（火災共済・自然災害共済）推進

能登半島地震など自然災害が頻発している状況をふまえ、労働者福祉運動の原点共済である住まいる共済の更なる普及促進をはかります。

2024 年 4 月に実施した商品改定を契機とし、掛金改定や保障内容等、丁寧な説明を経て、無保障者を無くす意義や組織としての助け合いの仕組み導入の必要性周知に努めるほか、防災減災の担い手づくりの取り組みとして、防災士資格を持つ職員による防災減災セミナーの開催等啓発活動をとおり、労済運動を拡げていきます。

また、火災共済誕生 70 年を契機とし、住まいる共済の歴史・意義等についてあらためて周知する活動を行い、適正な住宅保障提案活動につなげます。

- ① 制度改定周知・説明会の実施
- ② 能登半島地震発災などによる自然災害共済の必要性訴求活動の展開
- ③ こくみん共済 coop 防災士による有用情報の積極提供や各種施策の展開
- ④ 「火災共済誕生 70 周年の取り組み」の展開
- ⑤ 「みんなで被災地応援プロジェクト」の実施

※こくみん共済 coop では防災減災活動の普及実践のため、職員の防災士資格の取得活動を進めており、2025 年 2 月 25 日現在の有資格者数は 66 名になります。

(参考) ブロック別自然災害共済付帯率 (職域契約の自然災害共済契約件数 / 火災共済契約件数)

※2024 年 6 月から 2025 年 1 月への付帯率推移

ブロック	付帯率推移	ブロック	付帯率推移
石 狩	49%→51% ↑	網 走	44%→43% ↓
後 志	38%→38% ー	上 川 中	38%→39% ↑
西 胆 振	42%→43% ↑	上 川 南	45%→45% ー
東 胆 振	58%→58% ー	上 川 北	38%→38% ー
日 高	59%→58% ↓	留 萌	59%→60% ↑
空 知	61%→62% ↑	宗 谷	47%→48% ↑
釧 路	68%→68% ー	北 渡 島	65%→66% ↑
根 室	76%→76% ー	南 渡 島	62%→64% ↑
十 勝	67%→68% ↑	檜 山	66%→66% ー
		北 海 道	45%→46% ↑

2. 生活保障設計運動等の取り組みについて

(1) 「団体生命共済」を活用した組織内保障拡充の取り組み

今後も保障セミナー、学習会の開催による各種情報発信について進め、協力団体に対して組合員の福利向上の観点から団体生命共済一律や各種特約付帯の取り組み要請を強化していきます。

団体生命共済については、協力団体における保障の基盤となる制度です。「全員一律加入」については、「たすけあい」の原点である「みんなで支えあう」ことにより、病気療養中の組合員を含めて加入することが（救うことが）出来る制度です。全員で加入することで、安定的な掛金の設定、漏れのない保障の実現が可能となります。

また、2023年5月にサービスを開始した「こくみんLifeサポート」については、労組における福利厚生制度の充実にも位置付けられるサービス提供であることから、それらの付加価値の提供をふまえた団体生命共済一律加入の導入提案活動も行っています。

- ① 新規加入・一律加入・加入口数引き上げ・特約付帯提案活動の継続
- ② 適正保障確保のための、保障相談窓口による任意加入、増口提案、個人賠償責任共済の推進
- ③ 2025年2月実施「団体生命共済質問表改定」の周知活動
- ④ セット共済WEB化の取り組み

3. 離退職者に対する取り組み・新入組合員に対する取り組み

(1) 離退職者推進

生涯に渡って安心を提供していく観点から、離退職者に対するセカンドライフをふまえた適正な保障点検活動ならびに確実な個人契約への移行案内について、重点課題として位置付け着実な取り組みを継続します。

- ① 労働組合と連携した退職情報の事前把握による確実な提案活動
- ② 退職後に必要な適正保障の説明を目的とした退職セミナーの開催
- ③ 離退職予定者への個別面談によるきめ細かい説明機会の設定

(2) 新入組合員推進

将来に渡って労済運動を支えていく新入組合員に対し、労組と連携のうえ、労働組合活動としての共済活動理解促進とあわせ、新入組合員がより豊かな新生活を送ることができるよう、お金や保障に関する有益な情報提供や保障の適正化にむけた取り組みを展開します。

- ① 労働組合と連携した新入組合員情報の事前把握による説明機会の設定
- ② 労働組合との関係性や共済の成り立ち、保障に関する基本的な知識、保障の必要性などの説明を目的とした新入組合員対象セミナーの開催
- ③ 可処分所得向上を目的としたセミナーの開催

4. 領域拡大への取り組み

労済運動の維持・拡大に向けては未取り組み団体への取り組みが重要な課題であることから、引き続き産別・単組、ブロック推進会議、ブロック労福協と連携し、未利用（新規）団体の新規利用、共済利用の少ない団体の利用拡大に向けた取り組みを要請していきます。

特にマイカー共済の割引率が拡大した産別の加盟組織への新規利用促進をはかります。

5. 連合スクラム共済の取り組み

連合北海道、連合各地協・地区連合、ブロック推進会議など労済運動に関わる総体として引き続き「連合スクラム共済」の加入拡大を目指し、各産別への要請活動の継続とともに、連合各地協・地区連合との連携によるエリア内の産別・単組への取り組み要請活動を展開します。

6. こくみんLife サポート・公式アプリの利用促進等の取り組み

従来の組合員一人一人に寄り添った最適な保障設計をサポートする「保障設計サポート」に加え、組合員特典価格等でもしもの事前・事後の生活全般をサポートする「生活保障サポート」を展開し、組合員の暮らしを丸ごとサポートします。

あわせて、持続可能な社会実現の取り組みに向けた費用相当分を負担する「デジタル促進特別活動費」の活用周知をはかります（事前に協定書を締結し、アプリを新規ダウンロードのうえ、アプリからマイページへ初めてログインした件数1件につき、250円をお支払いするもの）。

7. 2024 年度取り組み・会議日程

(1) 強化月間等の取り組み日程

以下のとおり、各種取り組みの予定をしています。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
人の保障			強化月間					強化月間				
家の保障	2023 年度 CP							火災共済 70 周年取り組み				
車の補償								キャンペーン				
アプリ							キャンペーン					

(2) 2024 年度労済運動推進会議日程

- ・ 2024 年 6 月 13 日 第 1 回北海道労済運動推進会議
- ・ 2024 年 12 月 4 日 第 2 回北海道労済運動推進会議
- ・ 2025 年 3 月 10 日 第 3 回北海道労済運動推進会議
- ・ 2025 年 6 月 予定 2025 年度 第 1 回北海道労済運動推進会議

Ⅳ. 2024年度 北海道労済運動推進会議 役員体制について

2024年度「北海道労済運動推進会議」幹事会の幹事体制は以下のとおりです（敬省略）。
役員体制に変更はありません。

役 職	選出団体	氏 名	役職名
議長	北海道労福協	高倉 司	副理事長兼事業推進本部長
副議長	連合北海道	小倉 佳南子	総務財政局長
事務局長	北海道労福協	紺野 則仁	副理事長兼事務局長
事務局次長	北海道労福協	斉木 孝也	事務局次長
事務局次長	北海道労福協	高尾 淳	事務局次長
事務局次長	こくみん共済 coop 北海道推進本部	高橋 朋広	事業推進部 組織・居住域担当部長
幹事（産別代表）	自治労北海道本部	池田 裕二	企画総務部長
幹事（産別代表）	全開発労組	齋藤 航太郎	書記長
幹事（産別代表）	私鉄総連北海道地方労組	加藤 裕幸	執行委員長
幹事（産別代表）	紙パ連合北海道地方本部	藤山 如昭	執行委員長
幹事（支店代表）	道央支店	日西 和広	連合胆振地協 会長
幹事（支店代表）	道東支店	武田 研二	連合網走地協 事務局長
幹事（支店代表）	道北支店	下山 貢司	私鉄総連道北バス支部 委員長
幹事（支店代表）	道南支店	川口 勝也	連合渡島地協 副会長
幹事（退職者連合）	北海道退職者連合	真壁 英治	事務局長